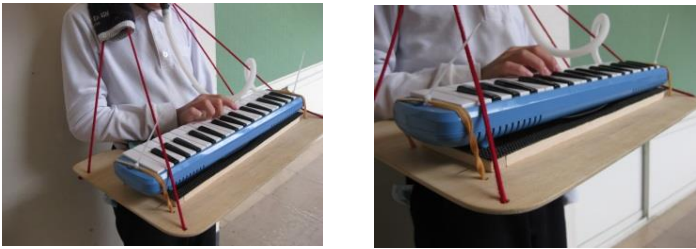


教材・支援機器活用実践事例

【片手麻痺のある児童への鍵盤ハーモニカの指導支援】

子どもについて	学校・学年・学級	○小学校 5年 特別支援学級（肢体不自由）
	対象の障がい	○肢体不自由
	授業形態	○集団学習 交流及び共同学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<p>○片麻痺のため左半身に力が入らず、左手で鍵盤ハーモニカなどの重い物を持つことが難しい。</p> <p>○これまでの「交流及び共同学習」の音楽で学んできたことを生かし、みんなと一緒に運動会の鼓笛や市の鼓笛パレードに参加したい。</p> <p>○鍵盤ハーモニカを演奏しながら行進できるようになりたい。</p>
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	
	活用のねらい	○鍵盤ハーモニカを演奏しながら行進できるようにする。
授業における支援・教材の配慮事項		<p>○鍵盤ハーモニカがずれ落ちないように、楽器と板の間に滑り止めシートを挟み、輪ゴムで楽器を固定した。</p> <p>○歩く際に、首の後ろの部分が紐で擦れないように、タオルを挟むようにした。</p>
子どもの変容や評価		<p>○音楽は低学年の時から「交流及び共同学習」で学習してきた。みんなと一緒に学習できることを楽しみにしてきた。</p> <p>○左手が不自由でリコーダーの演奏が難しい分、右手だけで演奏できる鍵盤ハーモニカは本児にとって大好きな楽器で、音楽の時間には意欲的に学習に取り組んできた。</p> <p>○4年生の後半になり鼓笛の練習が始まると、みんなと一緒に鼓笛に参加することができるか、とても不安に思っていた。</p> <p>○楽器が不安定にならないように調整を行い、児童も安心して使用することができた。</p> <p>○この支援器具を使用したことで、鼓笛への不安がなくなり、意欲的に練習に参加する姿が見られるようになった。運動会や鼓笛パレードでも、自信をもって演奏し、行進することができた。</p>